

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

2010年度中信高体連新人登山大会

9月17、18の両日、中信地区の新人戦を行なった。今年は松本市の内田少年の森キャンプ場をベースに初日は横峰でオリエンテーリング競技、2日目は鉢伏山で交流登



写真説明
開会式 競技スタート
夜の交流会 閉会式
鉢伏山山頂にて

山を行なった。「内田少年の森」での大会開催は1997年以来、13年ぶりのこと。今年は残念ながら、女子の参加がなかった（史上初!）が、エントリー校は8校13チームの28名。天候にも恵

まれた大会であった。

キャンプ場は、松本市の東山麓にある厄除けの寺として有名な「牛伏寺」に程近い場所に位置し、明治時代にフランス式の階段工法で治水工事が行なわれた牛伏川のリバーサイドにある。なかなか訪れる人もない静かなキャンプ場である。まだ猛暑の名残のある中、競技を終えた生徒が水遊びにも興じる姿もあった。

競技はコースオリエンテーリングの形式で行ない、体力50点、読図40点、設問100点の計100点満点で採点した。コースは送電線の監視道を主体にスタートからゴールまでの周回コースとしたが一部ルートファインディングが要求される部分（この部分についてはテープ等で誘導）もあり、その意味では面白いコース設定ができた。約半数のチームが規定時間内にゴールしたが、日頃から地図を読むことに慣れていないチームにとっては、体力のみならず総合力が問われる厳しいコースだったのかもしれない。というのも、コースには専門委員が2回下見に入り、当日も事前のポイント撒きとコース整備には万全を尽くしたつもりであったが、想定外の道に入り込んだ道迷いチームが2カ所で数チーム出てしまったのである。一時大会本部としてはやや緊張し、反省させられる部分もあったが、結果的には大事には至らず全チームが競技時間内に無事ゴールに帰着し、事なきを得た。経験の少ない新人ということに加え、日が短くなった秋の大会であるということも相俟って、専門委員長としては毎年生徒の把握については神経を使う大会ではあるが、2回の下見専門委員会を通して、見落としした踏み跡があったこととルート規制が十分でなかったことは今後への反省材料である。

初日の夕刻からの交流会は、文字通り学校の柵を越えて焚き火を囲んでのそれとなった。例年は、講演会の企画もするのであるが、今年は施設の関係で、難しかろうと交流会のみとした。赤羽さんが軽トラック1台分の薪を用意して下さり、生徒たちは火を囲みながら十二分に楽しんで、「火」があるというだけで、通じあうことができる。

大会第2日は、前鉢伏山と鉢伏山に登った。実際は山頂直下まで車でいったので、散歩程度ではあったが、前日打ち解けた生徒たちは、思い思いに景色を楽しんでいた。残念ながら、南アルプス、富士山などを望むことは叶わなかったが、眼下に松本平を望み北アルプスをバックに記念写真を一枚。

大会運営に携わってくださった会場長の六川白馬高校長はじめ、高体連OBの赤羽さん、各校顧問、また専門委員各位にこの場を借りてお礼を申し上げたい。

編集子のひとごと

池田工業では、今年の文化祭の山岳部の展示・イベントとして、3Fの教室を一部屋使って活動紹介をするとともに、その教室から校舎の壁を使って3Fからの「懸垂下降体験」を企画した。2日間で校内外のおよそ60名が、ロープを使って校舎から下りた。部員3人しかいない弱小クラブゆえ、今年のところは「活動のアピールができればそれでいい」と、即効性をねらったわけでもなかったのだが、実際には効果はてきめんで、文化祭直後に入部希望者が2人現れた。彼らはクライミングのみならず、山登りもしてみたいという。そんなわけで、急増チームではあったが、今回の新人戦にも早速出場できた。参加した感想を聞いて見ると前向きで、楽しかったという。去年まで人数不足で正規チームでの出場がかなわなかった2年生も大会結果が出たことに満足感を感じながらも次に向けて少し欲もでてきている。大事に育てて行きたいと思っている。(大西 記)